

5. 研究評価

5.1. 気象研究所評議委員会

役 割

気象研究所評議委員会は、気象研究所長に対し「気象研究所の長期研究計画の策定に関する助言」及び「気象研究所が実施する研究課題の評価に関する報告」を行うため、平成7年12月に設置された委員会であり、気象業務に関する研究について広く、かつ高い見識を有する研究所外の外部有識者により構成されている。

また、特別研究費ならびに気候変動予測研究費による研究課題（特別研究）の外部評価を実施するため、評価対象となる研究の分野にあわせ、評議委員の中から「気象研究所評価委員会」の委員を選出して外部評価を実施している。

平成15年度気象研究所評議員名簿（所属、役職等は平成15年4月1日現在。五十音順、敬称略）

委員長	平 啓介	(独)日本学術振興会 監事
委員	石田瑞穂	(独)防災科学技術研究所 研究主監
	木田秀次	京都大学大学院 理学研究科地球惑星科学専攻 教授
	小室広佐子	東京国際大学 国際関係学部 助教授
	田中 佐	宇宙開発事業団 地球観測利用推進センター主任研究員
	田中正之	東北工業大学 環境情報工学科 学科長
	泊 次郎	朝日新聞社 編集委員
	中島映至	東京大学 気候システム研究センター 教授
	廣井 脩	東京大学 社会情報研究所 教授
	松山優治	東京水産大学 海洋環境学科 教授
	安成哲三	名古屋大学 地球水循環研究センター 教授
	渡辺秀文	東京大学 地震研究所 教授

平成15年度の開催状況

平成15年度は、次のとおり第12回～第14回の評議委員会を開催した。このうち、第12回と第14回は東京（気象庁本庁）で開催し、第13回については書面開催とした。

- ・第12回評議委員会 平成15年10月7日
- ・第13回評議委員会 平成16年1月20日
- ・第14回評議委員会 平成16年2月18日

第12回の評議委員会では、今期（平成15年度・16年度）の評議委員長として平 啓介 氏を選出した。また、気象研究所の概要を説明し、気象研究所がめざすべき研究実施体制、評価体制についてご討議いただいた。

第13回の評議委員会では、第12回の議論を受け、各研究部が連携を強化して研究を進める新たな研究体制を提案し、ご了承をいただいた。

第14回の評議委員会では、第13回の評議委員会で提案した研究体制を具現化した平成16年度の研究計画と研究課題の評価体制を提案し、ご了承をいただいた。また、気象研究所中・長期研究計画のフォローアップと次期の計画策定について提案し、ご討議いただいた。中・長期研究計画については、平成16年度にフォローアップを行い、次期中・長期研究計画の策定に向け作業を進めることとなった。

第12回評議委員会

日 時：平成15年10月7日（火）13：30～16：30

場 所：気象庁 大会議室

出席者

（評議委員）

平 啓介 委員長、木田秀次 委員、小室広佐子 委員、田中 佐 委員、田中正之 委員、

5. 研究評価

泊 次郎 委員、中島映至 委員、松山優治 委員、安成哲三 委員、渡辺秀文 委員
(気象研究所)

気象研究所長、企画室長、研究評価官、総務課長、各研究部長 (9名)、他関係官

議事次第

- (1) 気象研究所長挨拶
- (2) 平成 15・16 年度評議委員の紹介
- (3) 評議委員長選出
- (4) 評議委員長挨拶
- (5) 気象研究所の概要について
- (6) 気象研究所における評価体制について
- (7) 特別研究の評価について
- (8) 気象研究所の研究体制について
- (9) その他 (今後のスケジュール)

会議経過

- ・ 今期の委員長として平 啓介 氏を選出した
- ・ 「気象研究所の概要」と「気象研究所における評価体制について」では、企画室長が説明を行った。
- ・ 「特別研究の評価について」、
前年度に実施した事前評価 (東海地震の予測精度向上及び東南海・南海地震の発生準備過程の研究) の結果と研究計画への反映状況を説明した。
また、中間評価 (地球温暖化によるわが国の気候変化予測に関する研究) の実施に際し、次の評価委員を選出した。
評価委員長：平 啓介 委員長
評価委員：木田秀次 委員、小室広佐子 委員、田中正之 委員、中島映至 委員
- ・ 「今後の気象研究所の研究体制について」、
企画室長が研究の実施体制について提案し、説明を行った。
気象研究所の提案に対し、課題の決定プロセスやテーマ選定の考え方、研究代表者の考え方、実施にあたっての留意点などについて助言をいただいた。
また、今後の研究評価について、ピアレビューの導入や評価結果の取り扱いについて助言をいただいた。
これらの意見をふまえ、次回の評議委員会で気象研究所から具体的な提案を行うこととした。

第 13 回評議委員会

意見集約日：平成 16 年 1 月 20 日

回答者：平 啓介 委員長、安成哲三 委員、小室広佐子 委員、松山優治 委員、石田瑞穂 委員、
中島映至 委員、田中 佐 委員、田中正之 委員、渡辺秀文 委員、泊 次郎 委員、
木田秀次 委員

議事

議題 1 『気象研究所の研究体制の変更について』

- ・ 概ね方向性は正しい/評価できるとの意見と共に、多くの助言・指摘事項を頂いた。

議題 2 『特研「地球温暖化によるわが国の気候変化予測に関する研究」の中間評価結果』

- ・ 全員一致で、評価委員会から提出された中間評価結果が了承された。

議題 3 『地球温暖化に関わる次期特研の事前評価の評価委員の選任について』

- ・ 全員一致で、平委員長、木田委員、小室委員、田中 (正之) 委員、中島委員が選任された。

第 14 回評議委員会

日 時：平成 16 年 2 月 18 日 (水) 13:30~16:30

場 所：気象庁 大会議室

出席者

(評議委員)

平 啓介 委員長

木田秀次 委員、小室広佐子 委員、泊 次郎 委員、廣井 脩 委員、渡辺秀文 委員

(気象研究所)

気象研究所長、企画室長、研究評価官、総務部長、各研究部長 (9名)、他6名

議事次第

- (1) 気象研究所長挨拶
- (2) 平成16年度の予算について
- (3) 第13回評議委員会の概要(案)の承認について
- (4) 特別研究の外部評価の実施について
- (5) 気象研究所の中長期研究計画の変更について
- (6) 気象研究所の研究・評価体制について
- (7) 平成16年度から実施を計画しているプロジェクト研究課題について
- (8) その他(今後のスケジュール)

会議経過

- ・「平成16年度の予算について」では、企画室長が予算の内示状況について説明を行った。
- ・研究評価官が第13回評議委員会(書面開催)の議事概要について説明し、承認を得た。
- ・「特別研究の外部評価の実施について」、事前評価(地球温暖化によるわが国の気候変化予測に関する研究)の結果について評価委員長より報告があった。また、評価委員から「評価フォーマットの評価項目のワーディングの検討をするべきである。」との意見があり、次回の評議委員会で変更案を示す旨研究所から回答した。また、中間評価(火山活動評価手法の開発研究)ならびに事後評価(地震発生過程の詳細なモデリングによる東海地震発生の推定精度向上に関する研究)の実施に際し、次の評価委員を選出した。
評価委員長：平 啓介 委員長
評価委員：石田瑞穂 委員、小室広佐子 委員、泊 次郎 委員、渡辺秀文 委員
- ・「気象研究所の中長期研究計画の変更について」では、企画室長が気象研究所中長期研究計画の変更案について説明し、変更方針について意見をいただいた。
- ・「気象研究所の研究・評価体制について」では、企画室長が平成16年度以降の実施体制について説明し、実施体制に関する意見をいただいた。
- ・「平成16年度から実施を計画しているプロジェクト研究課題について」では、各プロジェクト研究(仮称)課題の代表者が説明を行った。

5.2. 気象研究所評価委員会

役割

気象研究所評価委員会は、気象研究所の実施する研究課題の外部評価を行うために設置されている委員会である。評価委員会の構成員は、評価の対象となる研究課題に応じて、気象研究所評議委員から選出され、委員長は評価委員の互選によっている。

開催状況

平成15年度は、気候変動予測研究費による研究課題の評価として、評価委員会を2回開催した。

中間評価

研究課題名：地球温暖化によるわが国の気候変化予測に関する研究

研究期間：平成12年度～平成16年度

評価日：平成15年11月19日

5. 研究評価

評価委員：平 啓介 委員長、石田瑞穂 委員、小室広佐子 委員、泊 次郎 委員、渡辺秀文 委員
評価結果：計画の修正を伴わずに、継続すべきとの評価となった。

事前評価

研究課題名：わが国の温暖化影響評価に資するための気候変化予測に関する研究（仮題）

研究期間：平成 17 年度～平成 21 年度

評価委員：平 啓介 委員長、石田瑞穂 委員、小室広佐子 委員、泊 次郎 委員、渡辺秀文 委員

評価結果：平成 16 年度当初にとりまとめ予定